

施策評価調書(元年度実績)

				施策コード	Ⅲ-2-(1)	
政策体系	施策名	芸術文化の創造	所管部局名	企画振興部		
	政策名	芸術文化による創造県おいたの推進	関係部局名	企画振興部、教育庁		
				長期総合計画頁	137	

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	多彩で優れた芸術文化に触れる機会の提供	県立美術館における鑑賞・創作機会の提供	県民参加による芸術文化活動の推進と芸術文化を創造し支える人づくり	次代の芸術文化の担い手づくり

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する取組No.	基準値		元年度			6年度	目標達成度(%)				
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125
i	県立美術館入場者数(万人)	①② ③④	H26	—	50	53	106.0%	50					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成	県立美術館では、ラグビーワールドカップ2019大分開催に併せ、「The Ukiyo-e 歌川派」展、「日本の美意識—刀剣と金工—」展などを開催し、国内外から訪れた観戦客が日本文化に触れられる機会を創出し、目標値を達成した。	達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・別府アルゲリッチ音楽祭では、県民が優れた芸術を享受できる機会を提供するとともに、最高レベルの芸術イベント開催地としての大分県を国内外に情報発信することができた。大分アジア彫刻展では、第15回展(R2)の開催に向けて、作品公募を実施し10カ国1地域から311点の応募があった。 ・県内の芸術文化情報を発信するための動画やホームページを制作したほか、You Tube、Yahoo!ニュース、Instagramにて県内の芸術文化情報の広告配信を実施した。(You Tube動画:40.4万回再生)
②	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の14市町村の23校41学級が、県立美術館における鑑賞授業を実施し、小学生546人が参加した。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・姫島村において、IT技術を活用したアートライブパフォーマンスとジオツアー・車エビなどの地域特有の自然や食を組合わせたカルチャーツーリズムの実施体制を構築した。(新型コロナウイルスの感染防止のためツアー自体は中止)
④	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップ関係会場で高校生による神楽、書道、茶道などのパフォーマンスや文化体験活動を行い、多くの来県者に芸術文化を発信した。(7校99人が参加) ・県内高校生による絵画展示を大分市中心部商店街で開催し、多くの方々が気軽に芸術文化に触れる機会を創出した。(66校から91点を出展)

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(元年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	国際芸術文化振興事業	109.9	294
①③	芸術文化による地域おこし事業	132.2	298
②	芸術文化ゾーン拠点創出事業	106.5	298
	ミュージアムを活用した美術教育実践事業	100.0	256
④	子どもわくわく文化体験事業	110.5	294

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第4回発展部会(R1.10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の観点から、FIT(海外個人旅行)を狙っていく際、ユニークベニュー(特別な場所)、コト消費等の言葉が出てくるが、国東半島のように、特殊な場所にエッジの効いた何らかのことが行われるということは、それ自体が世界に向けて発信力のあるコンテンツであり、他とは異なる魅力を発信することができる。 ・そういったものを集中・集積させ、戦略的に海外に向け発信することがよい。 	
--	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館では、「五感で楽しむことのできる美術館」「自分の家のリビングと思える美術館」「県民とともに成長する美術館」のコンセプトの下、入場者数の目標達成に向けて、多様なジャンルに挑戦する企画展と集客力のある企画展をバランスよく実施する。 ・県内各地において多彩で質の高い芸術文化活動が行われるよう、優れた芸術文化を鑑賞し、参加し、創造することができる環境整備の充実を図るとともに、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育むために、若者や子どもたちの豊かな感性や創造力を育成する機会を充実する。 ・今後も引き続き、オリンピック・パラリンピック文化プログラムを活用した観光誘客に向けた「カルチャーツーリズム」に取り組む。 ・県立美術館において、子どもたちの主体的な鑑賞の機会の充実を図るとともに、教員の指導力向上に向けて本物の作品を使ったガイド実践を行う。 ・シンボルアート制作や県内学生による芸術作品展示を行い、障がいの有無に関わらない発表機会の創出や芸術文化への関心を高める取り組みを進める。